

「共に生きる」ことについて一緒に考えてみませんか

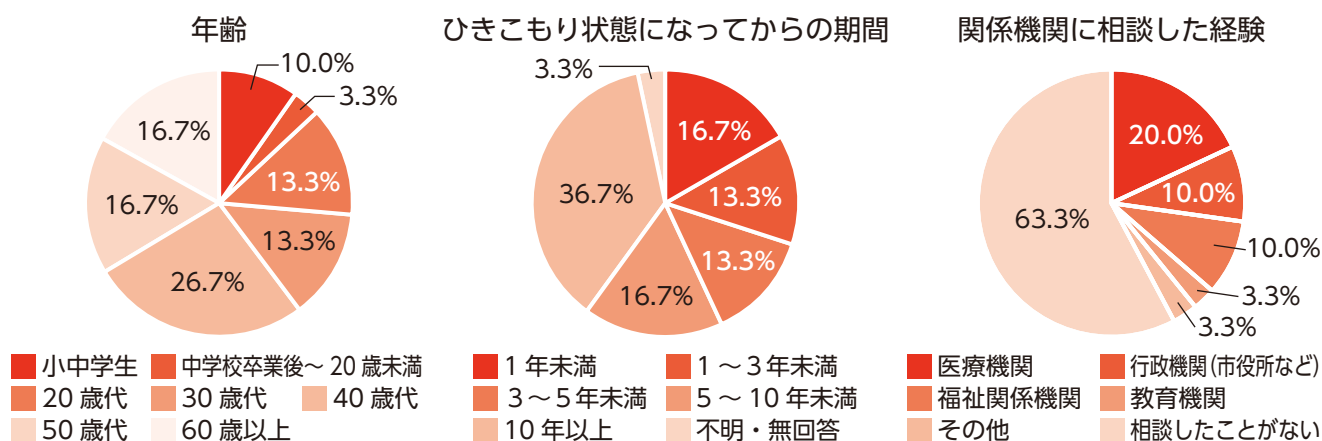
～「ひきこもり」と聞くと、皆さんはどのようなイメージをお持ちになりますか？～

■相談・問い合わせ先 社会福祉課(福祉まると相談窓口) ☎(32)7087

「ひきこもり」の概要

「ひきこもり」と聞くと「嫌なことから逃げて家に閉じこもっている人」、「仕事や学校をサボっている人」を想像されるかもしれませんが。「ひきこもり」とは、さまざまな理由で家から出られなくなり、生きづらさを感じている人たちです。ひきこもり当事者とその家族は、異なる経緯や事情を抱えています。内閣府が実施した「こども・若者の意識と生活に関する調査」では、ひきこもり状態の方は、全国で推計146万人(4.07%)でした。「令和5年度市ひきこもりに関するアンケート調査」では回答者のうち3.8%の方がひきこもり状態の方がいると回答されました。支援に大切なことは、周囲の人の理解やサポートです。まずは「ひきこもり」を知ることから始めてみませんか。

本市における「ひきこもり」の現状(R5アンケート結果)



なぜ、人はひきこもるのか

「家の外に出ると白い目で見られるかも」「部屋の外に出ると家族から何か言われるかも」そうした不安があるから、本人は安全・安心な家や自室にひきこもります。つまり、本人にとって地域が安全・安心な場所であれば、自ずと家の外に出ていきます。ひきこもることを悪いことだと考えず、本人に「外に出よう」「働きなさい」と声をかける前に、まずはご相談ください。

「ひきこもり」の解決方法

「ひきこもり」をすぐに解決することは困難です。まずは自宅を本人にとって安全・安心な場所にすることが肝要です。家族の皆さまに相談していただくことで、解決方法を一緒に考え

ることができるようになります。長期にわたり本人を支える家族、とりわけ母親を支援することが、解決への一番の近道です。

親にできることは

長期の「ひきこもり」や8050問題などにある傾向として、家庭内でトラブルが起きるまで行政や専門機関に相談しないことが挙げられます。

社会通念上、「ひきこもり」であることが悪いことだという考えがあると、家族以外の人に隠してしまうということがあります。そのことが結果として、「ひきこもり」であることを長期化させてしまう要因なのです。

ポラリス★とちぎが開所してから、約9年に渡り相談を続けている方がいます。その間、本人にはほとんど変化はありませ

ん。変化がなくても相談することで、家族は日頃のストレスを解消できますし、本人に変化があった際にすぐ対応できる体制が整えられます。

親御さんが公的機関などずっと繋がっていることにより、万が一のときに速やかに支援に入ることが可能です。継続的な相談こそ、ひきこもっている本人を守る一番の解決方法です。



栃木県子ども若者・ひきこもり
総合相談センター
ポラリス★とちぎセンター長
中野謙作 氏